

例会記録

第39回日本医史学会神奈川地方会秋季例会・
日本医史学会9月学術例会の合同例会平成24年9月8日(土)
鶴見大学歯学部3号館2階3-1講堂

一般講演

1. 「1860年代横浜；わが国の近代眼科医療の曙」
鈴木高遠
2. 「精神医療の横浜病院100周年のあゆみ」
津田昌利
3. 「薬師信仰について」 杉田暉道(欠演)
4. 「横浜のペスト史」 滝上 正(欠演)
5. 「子宮頸がんの予防ワクチン」 佐分利保雄
6. 「近代看護婦田中定の業績と今日的意義」
上坂良子

特別講演

「オスラーの教え子・佐伯理一郎の人と業績&
新渡戸稲造との交遊」 渡邊昭彦日本医史学会10月例会 平成24年10月27日(土)
順天堂大学医学部11号館16階北フロア

1. 大久保忠寛の『病幼児院創立意見』(安政4年)
と、長崎養生所、養育院、東京府病院
稲松孝思
2. 「温疫論」と「断毒論」の比較考察 西巻明彦

日本医史学会11月例会 平成24年11月24日(土)
順天堂大学医学部11号館16階北フロア

1. 大正11年制定、昭和2年施行の健康保険法に
ついての1考察
——関東大震災と医療体制史を含めて——
渡部幹夫
2. 中島友玄の京遊備忘 其の二
——京遊厨費録より見た遊学生活——
中島洋一

書評

寺澤捷年 著

『吉益東洞の研究——日本漢方創造の思想——』

欧米の研究者から「日本の漢方医学の特徴はなんですか、中医学とはどう違うのですか？」という質問を良く受ける。この質問に的確に答えるのはかなり難しい。

一言で言うならば、日本の漢方医学は、中医学で最も重視している部分を不要のものとし、別の方法論で処方を用いるところに最も大きな特色があるのだが、そのような形を作ったのが、吉益東洞という人なのである。

著者の寺澤捷年先生は、その吉益東洞に焦点をあて、これまでの東洞に関する多くの研究と、自

らの手で解明した事実を踏まえ、40年余に及ぶ臨床経験の上に立って本書を執筆された。それらは過去の研究を参考にはしてはいても、さらに奥深く新しい目で新解釈を施し、細かい事跡にまで踏み込んでいる。ここには東洞の実像を解明する試みが満ち溢れている。

この本の特徴は3点に集約される。

一つは、東洞の活躍した時代の彼の周辺の人々の状況や関連文献から東洞の学術思想と医術そのものを読み解こうとしていることである。これは、特に徂徠学が東洞の医学思想に決定的な影響